

中国化学会略史

雑誌名	中国文化：研究と教育
巻	70
ページ	109-114
発行年	2012-06-23
URL	http://hdl.handle.net/2241/00150761

中国化学会略史

承前「中国化学会（旧大塚漢文学会）略史」（中国文化—研究と教育—）第六〇号、二〇〇二、所収

二〇〇一年（平成十三年）

六月二三日 平成十三年度中国化学会大会（於大妻女子大学）。村上之伸「陳虬の温州語について」、松村茂樹「呉昌碩の石鼓文書写について」、谷口匡「韓愈の「進学解」について」、加藤敏「元結の初期作品について」、松尾善弘「近体詩の平仄と造句法」、小谷一郎「三德里での青春—創造社出版部と上海通信図書館—」。シンポジウム「漢文教育の今—変革は可能か—」、細谷美代子、安立典世、高岡正幸、町田静隆。平成十三、十四年度会長高橋均。

九月二二日 例会（於筑波大学学校教育部）。関浩志「一九六二年改作上演の歌劇『白毛女』について」、瀬尾邦雄「庄内藩学における徂徠学の受容について」。

一二月八日 例会（於筑波大学学校教育部）。大橋賢一「李善注『文選』と顔師古注『漢書』の關係について」、内山直樹「漢代の書物に見られる篇次の保存方法」。

二〇〇二年（平成十四年）

三月九日 例会（於筑波大学学校教育部）。高橋未来「唐詩に見える「貶謫」の諸相」、大上正美「西順蔵〈嵇康論〉をめぐる問題」。

五月二二日 例会（於筑波大学学校教育部）。速水愛子「温庭筠の律詩における対句について」、安藤信廣「阮籍「詠懷詩」小考」。

六月二九日（中国文化—研究と教育—）第六〇号発行。七十周年記念号。編輯者、編輯委員会 代表大上正美（以下六一号まで同じ）。印刷所、株式会社共立印刷所（以下同じ）。中国化学会（旧大塚漢文学会）略史「中国文化」総目次（五〇号—五九号）掲載される。

同日 平成十四年度中国化学会大会（於国土館大学）。西村論「李白詩の「孤雲」と「衆鳥」について」、加固理一郎「李商隱の無題詩について」、高橋稔「中国東北の快板に現れた漢語の俗的表現」、菅野智明「有正書局の法書出版について」、中村俊也「現代新儒家の主要觀念—「專念」と「非専門」について—」、笠井幸博「高校生は李白と杜甫のどちらが好きか—高校生による李杜優劣論—」、松尾善弘「二〇〇二年度センター試験漢文問題の点検と批正」。シンポジウム「中国文化の課題と研究」、安藤

信廣、堀池信夫、松村茂樹。

九月二八日 例会（於筑波大学学校教育部）。吉野敏武「装幀と料紙」。

二月一四日 例会（於筑波大学学校教育部）。山口若菜「蘇軾における飲酒と詩作について」、樋口泰裕「王籍「蟬噪林逾靜、鳥鳴山更幽」の評価をめぐって」。

二〇〇三年（平成十五年）

三月九日 例会（於筑波大学学校教育部）。望月眞澄「洪武正韻」依拠方言は温州方言なのである」。

五月一〇日 例会（於筑波大学学校教育部）。滝愛美「漢文教材としての『論語』、稀代麻也子「袁燦「妙徳先生伝」と陶淵明「五柳先生伝」——沈約『宋書』の文脈における意味の変容——」。

六月二八日 〈中国文化—研究と教育—〉第六一号発行。

同日 平成十五年度中国化学会大会（於文教大学）。舟部淑子「『中原音韻』「作詞十法」の評語について」、小林佳迪「文学作品の具現化と「桃花源記」に基づく文化景観」、蔣垂東「福建浦城方言の程度表現について」、高橋由利子「ヴァーチャルラーニングシステムとマルチランゲージ教育」、菅本大二「天人之分と天命」、青木五郎「司馬遷の「悲しみ」。シンポジウム「桃花源記」を読みなお

す—いくつかのキーワードを軸に—」、向嶋成美、小出眞美、門脇廣文、坂口三樹。平成十五、十六年度会長向嶋成美。

十一月八日 例会（於筑波大学学校教育部）。上田武「陶淵明の勸農詩と農家思想」。

二〇〇四年（平成十六年）

一月三十一日 例会（於筑波大学学校教育部）。白井啓介「映画がモダンになるまで—上海都市文化と中国電影の黎明期—」。

三月七日 例会（於筑波大学学校教育部）。齋藤聡「王維における自然詠法の一考察」、阿川修三「最近の中国図書館事情—北京図書館、中国国家図書館を中心に—」。

五月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。太田恵理子「いわゆる verb-copying 文について」、菅野智明「梁啓超の北碑論」。

六月二六日 〈中国文化—研究と教育—〉第六二号発行。編輯者、編輯委員会 代表安藤信廣（以下六三号まで同じ）。

同日 平成十六年度中国化学会大会（於上智大学）。貝田章子「田舎莊子」と成玄英」、小林佳迪「杜牧の「清明」詩に因む「杏花村」の再形成」、浅野雅樹「現代中国語における動量詞「度」について」、渡邊大「顧炎

武にとつての古音研究—その動機・意義づけをめぐつて—、谷口匡「韓愈の『鱷魚文』について」、沼口勝「陶淵明と南朝民歌—『歸去來兮辭』の題名との関連を中心に—」、シンポジウム「漢学における日本近代への経路—自己像の定立、他者像の形成—」、白井啓介、大塚秀明、高橋均、佐藤一樹。

九月二五日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。縮げさみ「九〇年代中国映画状況を振り返る—「紀実」と「若手」監督作品を中心に—」、佐々木勲人「東南方言における受益から処置への文法化」。

一二月四日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。鈴木直子「民国元年新劇同士の演劇活動—春柳劇場に至るまで—」、安藤好恵「語氣助詞の『啊』と『吧』と」。

二〇〇五年（平成十七年）

三月五日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。小松建男「『三国志演義』をどのように研究したらよいのか?」、劉勲寧「蔚、为什么念、yù、yù」。

六月二五日 〈中国文化—研究と教育—〉第六三号発行。

同日 平成十七年度中国化学会大会（於千葉大学）。山口若菜「蘇軾の閑適の詩について」、貝田章子「成玄英の非物と無物」、北村良和「大上氏『嵇康論』に於ける政

治と文学の関係を巡つて」、坂口三樹「人虎伝」本文の生成について」、松村茂樹「吳昌碩と周夢坡」、高橋均「藤原頼長と経書研究」。シンポジウム「東アジア（日本・中国・台湾・韓国）の漢文（古典）教材の比較」、青木五郎、渡辺雅之、木村淳、大橋賢一、辛賢。平成十七、十八年度会長向嶋成美。

九月二四日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。佐藤一樹「久米邦武と重野安繹」、高橋大輔「曹植遊仙系作品の考察」。

一二月三日 例会（於筑波大学附属中学校）。石毛慎一「近代の漢文科存廃論」。

二〇〇六年（平成十八年）

三月四日 例会（於筑波大学人文社会学系棟）。有馬みち「王勃「春思賦」考」、今井裕一「皇侃の科段説と学—篇題下疏を中心として—」。

六月二四日 〈中国文化—研究と教育—〉第六四号発行。編輯者、編輯委員会 代表加藤敏（以下六七号まで同じ）。

同日 平成十八年度中国化学会大会（於函館市勤労者総合福祉センター）。孫險峰「崔浩の天人思想」、松崎哲之「萬斯大の祭天思想について」、村上之伸「百年前の浙南方言語彙集「甌諺略」、小嶋明紀子「早霖集」所収

の楚辞系作品をめぐって、鳴海雅哉「唐・韋莊の「戦乱」を詠じた詩について」、谷口真由実「杜甫「秦州雜詩二十首」小考」、谷口匡「韓愈の「太学生何蕃伝」について」、加固理一郎「李商隱の「錦瑟」について」、白井啓介「上海一九二〇年代電影放映情況―映画館の隆盛とその上映映画を中心に―」。講演「江戸における詩人波響」、高木重俊。

九月二三日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。白井啓介「パリパリ北京の三七二日」。

一二月九日 例会（於筑波大学附属中学校会議室）。北島大悟「南京・丹陽の六朝陵墓・石刻とその現状（留学体験記）」、梅川純代「中国・日本における宗教的性愛技法の比較考察」。

二〇〇七（平成十九年）

三月四日 例会（於筑波大学附属中学校会議室）。柴田知津子「詩経」に見える植物の採取動詞について」。

六月三〇日 〈中国文化―研究と教育―〉第六五号発行。
同日 平成十九年度中国化学会大会（於三松学舎大学）。樋口泰裕「隋煬帝詩試論」、高橋未来「杜牧の『孫子注』について」、舟部淑子「中日翻訳の誤訳例と問題点」、安藤好恵「主従複文中の仮定について」、小嶋明紀子「譬さを詠う賦をめぐって」、渡邊義浩「鄭玄と王肅」、高

橋稔「『日本昔話大成』の見直しの必要性に関する中国文学研究の立場からの提言」。講演「西洋古典の初期刊本をめぐって」、細井敦子。平成十九、二十年度会長大上正美。

九月二四日 例会（於筑波大学人文社会学系棟）。鎌田崇嗣「梁簡文帝の詠物詩について」、井川義次「ヨーロッパにおける朱子学の受容」。

一二月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。大塚千晶「唐代の女流詩人魚玄機の詩における感情の表出について」、安藤信廣「侯景の乱と庾信―「哀江南賦」論を基礎として―」。

二〇〇八年（平成二十年）

三月八日 例会（於筑波大学東京キャンパス）。荒井禮「王漁洋の揚州赴任以前の樂府詩」、松村茂樹「吳昌碩と水野疎梅」。

四月二六日 例会（於三松学舎大学九段キャンパス）。沼口勝「阮籍の四言（詠懷詩）をめぐって」。

六月二八日 〈中国文化―研究と教育―〉第六六号発行。
同日 平成二十年度中国化学会大会（於横浜市立大学）。清地ゆき子「張資平作品にみられる恋愛用語」、和久希「『文心雕龍』の言語思想―「隱」義考序説―」、齋藤聡「唐代遊俠詩の変質―王維「少年行」をめぐって―」、

有馬みち「王勃」平台秘略論」に關する一考察」、北島大悟「沈約の隱逸思想と文学」、大橋賢一「李白」黄鶴樓送孟浩然之広陵」における「烟花」について」、柳川順子「李陵・蘇武詩の成立の場」、門脇廣文「二つの「桃花源記」から読み取れるもの」、大上正美「漱石詩の仮構（初探）—修善寺仰臥十二首をめぐる一側面—」。講演「金沢八景の歴史と変遷」、永井晋。

一〇月五日 例会（於青山学院大学青山キャンパス）。加藤敏「元結」春陵行」再論—「漫叟」の視座—、大久保隆郎「華夷思想と讖緯と浮屠」。

一二月六日 例会（於青山学院大学青山キャンパス）。佐藤一樹「明治中期の新式貸本屋と漢籍目録」、渡邊義浩『山公啓事』における貴族の自律性」。

二〇〇九年（平成二十一年）

三月七日 例会（於二松学舎大学九段キャンパス）。樋口靖「台湾語の訓読字について」、高橋均「注釈中の「按（案）」という語から見えること」。

五月二日 例会（於二松学舎大学九段キャンパス）。松本肇「靈感の詩学」。古典籍展示（高橋均会員蔵）を同時開催（以下の例会も同じ。展示内容については本誌各号彙報を参照）。

六月二七日 〈中国文化—研究と教育—〉第六七号発行。

同日 平成二十一年度中国化学会大会（於大東文化大学）。八木一絵「形式と内容—書における概念の比較—」、荒井禮「王漁洋の女性を詠ずる詩について」、松崎哲之「家礼」の空間構造と葬式仏教」、村上之伸「漢語南方方言にみられる訓読みについて」、寺門日出男「史記会注考証」と中井履軒」、鈴木直子「アメリカ留学時期の洪深」、白井啓介「美国影像—一九二〇年代上海におけるアメリカ—」。シンポジウム「人文系中国研究の将来—視点、枠組み、そして技法の継承と発展—」、佐藤進、高橋未来、松村茂樹。平成二十一、二十二年度会長大上正美。

一二月一二日 例会（於青山学院大学）。木村淳「検定制度初期における漢文教科書」、安藤信廣「聖武天皇宸翰『雜集』の二三の問題点について」。

二〇一〇年（平成二十二年）

三月六日 例会（於大妻女子大学）。下田章平「『三虞堂書画目』の資料的価値について」、高橋未来「杜牧と韓愈・柳宗元の兵戦観」。

五月一日 例会（於大妻女子大学）。堀池信夫「李贄『老子解』攷」。

六月二六日 〈中国文化—研究と教育—〉第六八号発行。編輯者、編輯委員会 代表坂口三樹（以下同じ）。

同日 平成二十二年度中国化学会大会（於長野

県短期大学。小嶋明紀子「冬を詠う賦をめぐって―雪と氷

の描写をめぐって―」、鳴海雅哉「晩唐・韋莊における杜

詩の影響」、渡邊大「顧炎武の考拠と経世―郡県をてがかり

りとして―」、高橋由利子「説文解字」データベースソフ

トについて」、加固理一郎「李商隱の詩歌と道教との関係

―内観存思のさまを描いた詩―」、安藤信廣「『イソップ物

語』の日本と中国」、高橋均「論語鄭玄注」は日本に将来

されたか。シンポジウム「近代における日中文化交流の

再検討」、阿川修三、佐藤一樹、松村茂樹。

九月一八日 例会（於大妻女子大学）。松村茂樹「『桃花源

記』の「問津」について」、大土正美「方法としての自虐

―庾信「擬詠懷詩」再読―」。

一二月一一日 例会（於大妻女子大学）。高橋未来「杜牧

の『注孫子』における『通典』の影響について」、加藤敏

「元結の「新樂府」について」。

二〇一一年（平成二十三年）

三月五日 例会（於大妻女子大学）。大村和人「宴を、儀

礼化。する―南朝梁・徐勉の「迎客曲」「送客曲」につい

て―」、内山直樹「漢代の太史と『漢著記』」。

五月七日 例会（於大妻女子大学）。尾川明穂「董其昌書

論における生熟説について」、白井啓介「中国電影初到考
―映画はいつ中国に伝わったのか―」。

六月二五日 〈中国文化―研究と教育―〉第六九号発行。